

● 逆境体験の合計値

ae 逆境体験合計

分位点

100.0%	最大値	12
99.5%		11.635
97.5%		9
90.0%		7
75.0%	四分位点	5
50.0%	中央値	3
25.0%	四分位点	1
10.0%		0
2.5%		0
0.5%		0
0.0%	最小値	0

要約統計量

平均	3.17
標準偏差	2.57
N	272
欠測値 N	10

●SOC 各項目の分布

一変量の分布

SOC1 r

度数

水準	度数	割合
1	26	9.4%
2	27	9.7%
3	48	17.3%
4	57	20.6%
5	35	12.6%
6	33	11.9%
7	51	18.4%
合計	277	100.0%

欠測値N 5

7 水準

SOC2 r

度数

水準	度数	割合
1	16	5.8%
2	19	6.9%
3	41	14.9%
4	53	19.2%
5	40	14.5%
6	54	19.6%
7	53	19.2%
合計	276	100.0%

欠測値N 6

7 水準

SOC3 r

度数

水準	度数	割合
1	25	9.1%
2	31	11.2%
3	55	19.9%
4	58	21.0%
5	34	12.3%
6	44	15.9%
7	29	10.5%
合計	276	100.0%

欠測値N 6

7 水準

SOC4

度数

水準	度数	割合
1	13	4.7%
2	29	10.5%
3	31	11.2%
4	45	16.2%
5	48	17.3%
6	44	15.9%
7	67	24.2%
合計	277	100.0%

欠測値N 5

7 水準

SOC5

度数

水準	度数	割合
1	33	11.9%
2	27	9.7%
3	41	14.7%
4	44	15.8%
5	22	7.9%
6	48	17.3%
7	63	22.7%
合計	278	100.0%

欠測値N 4

7 水準

SOC6

度数

水準	度数	割合
1	44	15.8%
2	36	12.9%
3	44	15.8%
4	60	21.6%
5	31	11.2%
6	33	11.9%
7	30	10.8%
合計	278	100.0%

欠測値N 4

7 水準

SOC7 r

度数

水準	度数	割合
1	41	14.8%
2	42	15.2%
3	38	13.7%
4	82	29.6%
5	38	13.7%
6	17	6.1%
7	19	6.9%
合計	277	100.0%

欠測値N 5

7 水準

SOC8

度数

水準	度数	割合
1	33	12.0%
2	35	12.7%
3	54	19.6%
4	51	18.5%
5	25	9.1%
6	46	16.7%
7	32	11.6%
合計	276	100.0%

欠測値N 6

7 水準

SOC9

度数

水準	度数	割合
1	33	11.9%
2	47	16.9%
3	50	18.0%
4	44	15.8%
5	31	11.2%
6	34	12.2%
7	39	14.0%
合計	278	100.0%

欠測値N 4

7 水準

SOC10 r

度数

水準	度数	割合
1	96	34.7%
2	60	21.7%
3	43	15.5%
4	31	11.2%
5	21	7.6%
6	14	5.1%
7	12	4.3%
合計	277	100.0%

欠測値N 5

7 水準

SOC11

度数

水準	度数	割合
1	23	8.3%
2	38	13.8%
3	43	15.6%
4	75	27.2%
5	33	12.0%
6	35	12.7%
7	29	10.5%
合計	276	100.0%

欠測値N 6

7 水準

SOC12

度数

水準	度数	割合
1	22	7.9%
2	35	12.6%
3	43	15.5%
4	47	17.0%
5	37	13.4%
6	47	17.0%
7	46	16.6%
合計	277	100.0%

欠測値N 5

7 水準

SOC13

度数

水準	度数	割合
1	35	12.7%
2	50	18.2%
3	59	21.5%
4	37	13.5%
5	26	9.5%
6	40	14.5%
7	28	10.2%
合計	275	100.0%

欠測値N 7

7 水準

●SOA より被受容感の各項目の分布

一変量の分布											
Soa1			Soa3			Soa6			Soa7		
度数			度数			度数			度数		
水準	度数	割合									
1	3	1.1%	1	7	2.6%	1	26	9.5%	1	9	3.3%
2	13	4.7%	2	27	9.9%	2	44	16.0%	2	22	8.0%
3	42	15.2%	3	94	34.3%	3	129	46.9%	3	73	26.5%
4	106	38.4%	4	91	33.2%	4	60	21.8%	4	108	39.3%
5	112	40.6%	5	55	20.1%	5	16	5.8%	5	63	22.9%
合計	276	100.0%	合計	274	100.0%	合計	275	100.0%	合計	275	100.0%
欠測値N	6		欠測値N	8		欠測値N	7		欠測値N	7	
5 水準			5 水準			5 水準			5 水準		
Soa10			Soa11			Soa14			Soa16		
度数			度数			度数			度数		
水準	度数	割合									
1	33	12.0%	1	24	8.8%	1	28	10.2%	1	13	4.7%
2	49	17.8%	2	52	19.0%	2	23	8.4%	2	26	9.5%
3	121	44.0%	3	125	45.6%	3	71	25.9%	3	115	42.0%
4	57	20.7%	4	59	21.5%	4	102	37.2%	4	83	30.3%
5	15	5.5%	5	14	5.1%	5	50	18.2%	5	37	13.5%
合計	275	100.0%	合計	274	100.0%	合計	274	100.0%	合計	274	100.0%
欠測値N	7		欠測値N	8		欠測値N	8		欠測値N	8	
5 水準			5 水準			5 水準			5 水準		

●SOA より被拒絶感の各項目の分布

一変量の分布											
Soa2			Soa4			Soa5			Soa8		
度数			度数			度数			度数		
水準	度数	割合	水準	度数	割合	水準	度数	割合	水準	度数	割合
1	70	25.4%	1	80	29.3%	1	40	14.5%	1	25	9.1%
2	77	27.9%	2	87	31.9%	2	48	17.5%	2	30	10.9%
3	88	31.9%	3	71	26.0%	3	104	37.8%	3	73	26.5%
4	28	10.1%	4	28	10.3%	4	59	21.5%	4	97	35.3%
5	13	4.7%	5	7	2.6%	5	24	8.7%	5	50	18.2%
合計	276	100.0%	合計	273	100.0%	合計	275	100.0%	合計	275	100.0%
欠測値N	6		欠測値N	9		欠測値N	7		欠測値N	7	
5 水準			5 水準			5 水準			5 水準		
Soa9			Soa12			Soa13			Soa15		
度数			度数			度数			度数		
水準	度数	割合	水準	度数	割合	水準	度数	割合	水準	度数	割合
1	37	13.5%	1	69	25.2%	1	64	23.4%	1	111	40.5%
2	47	17.1%	2	77	28.1%	2	62	22.6%	2	66	24.1%
3	109	39.6%	3	84	30.7%	3	79	28.8%	3	74	27.0%
4	57	20.7%	4	35	12.8%	4	48	17.5%	4	17	6.2%
5	25	9.1%	5	9	3.3%	5	21	7.7%	5	6	2.2%
合計	275	100.0%	合計	274	100.0%	合計	274	100.0%	合計	274	100.0%
欠測値N	7		欠測値N	8		欠測値N	8		欠測値N	8	
5 水準			5 水準			5 水準			5 水準		

●信頼感 (Sense of Trust) より自分への信頼の各項目の分布

一変量の分布			SOT1			SOT2			SOT3		
度数			度数			度数			度数		
水準	度数	割合	水準	度数	割合	水準	度数	割合	水準	度数	割合
1	29	10.4%	1	28	10.0%	1	45	16.2%	1	43	15.5%
2	75	26.9%	2	74	26.5%	2	93	33.5%	2	83	30.0%
3	117	41.9%	3	105	37.6%	3	108	38.8%	3	104	37.5%
4	58	20.8%	4	72	25.8%	4	32	11.5%	4	47	17.0%
合計	279	100.0%	合計	279	100.0%	合計	278	100.0%	合計	277	100.0%
欠測値N	3		欠測値N	3		欠測値N	4		欠測値N	5	
4 水準			4 水準			4 水準			4 水準		

●信頼感 (Sense of Trust) より他人への信頼の各項目の分布

一変量の分布			SOT6			SOT7			SOT8		
度数			度数			度数			度数		
水準	度数	割合	水準	度数	割合	水準	度数	割合	水準	度数	割合
1	25	9.0%	1	15	5.4%	1	16	5.8%	1	27	9.7%
2	51	18.3%	2	53	19.1%	2	54	19.4%	2	44	15.9%
3	131	47.1%	3	136	48.9%	3	135	48.6%	3	82	29.6%
4	71	25.5%	4	74	26.6%	4	73	26.3%	4	124	44.8%
合計	278	100.0%	合計	278	100.0%	合計	278	100.0%	合計	277	100.0%
欠測値N	4		欠測値N	4		欠測値N	4		欠測値N	5	
4 水準			4 水準			4 水準			4 水準		

●信頼感 (Sense of Trust) より不信の各項目の分布

一変量の分布								
SOT11			SOT12			SOT13		
度数			度数			度数		
水準	度数	割合	水準	度数	割合	水準	度数	割合
1	86	31.0%	1	111	39.8%	1	44	15.8%
2	70	25.3%	2	90	32.3%	2	55	19.8%
3	88	31.8%	3	50	17.9%	3	95	34.2%
4	33	11.9%	4	28	10.0%	4	84	30.2%
合計	277	100.0%	合計	279	100.0%	合計	278	100.0%
欠測値N	5		欠測値N	3		欠測値N	4	
4 水準			4 水準			4 水準		
SOT14			SOT15			SOT16		
度数			度数			度数		
水準	度数	割合	水準	度数	割合	水準	度数	割合
1	84	30.1%	1	80	28.7%	1	69	24.8%
2	60	21.5%	2	69	24.7%	2	93	33.5%
3	86	30.8%	3	84	30.1%	3	72	25.9%
4	49	17.6%	4	46	16.5%	4	44	15.8%
合計	279	100.0%	合計	279	100.0%	合計	278	100.0%
欠測値N	3		欠測値N	3		欠測値N	4	
4 水準			4 水準			4 水準		
SOT17			SOT18					
度数			度数					
水準	度数	割合	水準	度数	割合			
1	59	21.4%	1	55	19.9%			
2	85	30.8%	2	63	22.8%			
3	88	31.9%	3	104	37.7%			
4	44	15.9%	4	54	19.6%			
合計	276	100.0%	合計	276	100.0%			
欠測値N	6		欠測値N	6				
4 水準			4 水準					

● 逆境体験の各項目の分布

一変量の分布

ae1		
度数		
水準	度数	割合
0	230	83.0%
1	47	17.0%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae2		
度数		
水準	度数	割合
0	168	60.6%
1	109	39.4%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae3		
度数		
水準	度数	割合
0	193	69.7%
1	84	30.3%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae4		
度数		
水準	度数	割合
0	249	89.9%
1	28	10.1%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae5		
度数		
水準	度数	割合
0	199	72.1%
1	77	27.9%
合計	276	100.0%
欠測値N	6	
2 水準		

ae6		
度数		
水準	度数	割合
0	188	68.1%
1	88	31.9%
合計	276	100.0%
欠測値N	6	
2 水準		

ae7		
度数		
水準	度数	割合
0	211	76.4%
1	65	23.6%
合計	276	100.0%
欠測値N	6	
2 水準		

ae8		
度数		
水準	度数	割合
0	210	76.1%
1	66	23.9%
合計	276	100.0%
欠測値N	6	
2 水準		

ae9		
度数		
水準	度数	割合
0	256	92.4%
1	21	7.6%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae10		
度数		
水準	度数	割合
0	194	70.0%
1	83	30.0%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae11		
度数		
水準	度数	割合
0	248	89.5%
1	29	10.5%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae12		
度数		
水準	度数	割合
0	266	96.0%
1	11	4.0%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae13		
度数		
水準	度数	割合
0	247	89.2%
1	30	10.8%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae14		
度数		
水準	度数	割合
0	206	74.9%
1	69	25.1%
合計	275	100.0%
欠測値N	7	
2 水準		

ae15		
度数		
水準	度数	割合
0	269	97.1%
1	8	2.9%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae16		
度数		
水準	度数	割合
0	221	79.8%
1	56	20.2%
合計	277	100.0%
欠測値N	5	
2 水準		

ae17		
度数		
水準	度数	割合
0	266	96.4%
1	10	3.6%
合計	276	100.0%
欠測値N	6	
2 水準		

【AUDIT スコアと各スケール（SOC・受容・拒絶・信頼・不信・逆境）の関連】

●AUDIT スコアと各スケール（SOC・受容・拒絶・信頼・不信・逆境）：重回帰

※標準化回帰係数（偏回帰係数）の絶対値降順

項	p値(Prob> t)	標準β
SOT 不信合計	0.001	0.312
Soa 被受容感合計	0.006	0.229
Soa 被拒絶感合計	0.060	0.178
SOT 自己信頼合計	0.089	-0.140
SOT 他者信頼合計	0.558	-0.050
SOC合計	0.820	-0.020
ae 逆境体験合計	0.952	0.004

→AUDIT スコアを目的変数とし、不信、被受容感等の尺度を説明変数として重回帰分析を行った。尺度間の影響を補正して、どの尺度が AUDIT スコアとより強い相関があるかを偏回帰係数（標準β）で確認した

（偏回帰係数の絶対値が大きいほど AUDIT スコアと強い相関）。

結果)

AUDIT スコアと最も強い相関を認めたのは「不信」であり、「被受容感」、「非拒絶感」、「自分への信頼（の低さ）」、「他人への信頼（の低さ）」、「SOC 合計点（の低さ）」と続いた。「逆境体験」については、他の尺度に比べて強い相関を認めなかった。

【AUDIT スコアと SOC 下位尺度の関連】

●AUDIT スコアと SOC 下位尺度：重回帰

※標準化回帰係数（偏回帰係数）の絶対値降順

項	p値(Prob> t)	標準β
SOC処理可能感	0.041	-0.173
SOC把握可能感	0.164	-0.117
SOC有意味感	0.199	-0.089

→AUDIT スコアを目的変数とし、SOC の 3 つの下位尺度（処理可能感、把握可能感、有意味感）を説明変数として重回帰分析を行った。尺度間の影響を補正して、どの尺度が AUDIT スコアとより強い相関があるかを偏回帰係数（標準β）で確認した（偏回帰係数の絶対値が大きいほど AUDIT スコアと強い相関）。

結果）

AUDIT スコアと最も強い負（ネガティブ）の相関を認めた下位尺度は「処理可能感」であり、「把握可能感」、「有意味感」と続いた。「処理可能感」は統計学的にも有意であった。

【逆境体験数と各スケール（SOC・受容・拒絶・信頼・不信）の関連】

●逆境体験数と各スケール（SOC・受容・拒絶・信頼・不信）：重回帰

※標準化回帰係数（偏回帰係数）の絶対値降順

項	p値(Prob> t)	標準β
SOT 不信合計	<.0001	0.336
SOC合計	0.344	-0.082
Soa 被受容感合計	0.312	-0.082
SOT 自己信頼合計	0.498	-0.052
SOT 他者信頼合計	0.649	-0.035
Soa 被拒絶感合計	0.858	0.016

→逆境体験数を目的変数とし、不信、被受容感等の尺度を説明変数として重回帰分析を行った。尺度間の影響を補正して、どの尺度が逆境体験数とより強い相関があるかを偏回帰係数（標準β）で確認した。

結果)

逆境体験数と最も強い相関を認めたのは「不信」であり、「SOC 合計点（の低さ）」、「被受容感（の低さ）」、「自分への信頼（の低さ）」、「他人への信頼（の低さ）」と続いた。

「被拒絶感」については、他の尺度に比べて強い相関を認めなかった。

【年齢と各スケール（SOC・受容・拒絶・信頼・不信・逆境）の関連】

●年齢と各スケール（SOC・受容・拒絶・信頼・不信・逆境）：重回帰

※標準化回帰係数（偏回帰係数）の絶対値降順

項	p値(Prob> t)	標準β
SOC合計	0.014	0.231
ae 逆境体験合計	0.003	-0.202
SOT 自己信頼合計	0.087	0.142
Soa 被受容感合計	0.134	-0.130
SOT 他者信頼合計	0.385	-0.071
SOT 不信合計	0.485	-0.065
Soa 被拒絶感合計	0.658	0.044

→年齢を目的変数とし、SOC 合計得点、逆境体験等の尺度を説明変数として重回帰分析を行った。尺度間の影響を補正して、どの尺度が年齢とより強い相関があるかを偏回帰係数（標準β）で確認した。

結果)

年齢と最も強い相関を認めたのは「SOC 合計得点」であり、「逆境体験（の少なさ）」、「自分への信頼」、「被受容感（の低さ）」、「他人への信頼（の低さ）」、「不信（の低さ）」、そして「被拒絶感」と続いた。

厚生労働科学研究費補助金
(障害者対策総合研究事業(障害者政策総合研究事業(精神障害分野)))
アルコール依存症に対する総合的な医療の提供に関する研究
(研究代表者 樋口 進)

平成27年度分担研究報告書
アルコール依存症家族の支援に関する研究
研究分担者 成瀬 暢也 埼玉県立精神医療センター 副病院長

研究要旨

アルコール依存症は家族を巻き込む病気であると言われる。アルコール依存症の治療・支援が十分とは言えないわが国において、負担は家族に向かう。家族に対する調査研究によりその実態を把握し、家族支援に必要なものは何かを明らかにする。本研究では、特に相談機関や依存症医療機関に繋がって間もない家族に焦点を当てる。さらに、先行研究や対照群である薬物依存症家族との比較により、具体的で実現可能な支援について検討する。そこで得られた結果をもとに、家族支援の必要性を具体的に啓発していく。以上を本研究の目的とする。

現時点(平成28年2月10日時点)で回収済みの情報は、アルコール525例、薬物99例であり、調査経路に大きな相違があるため、確定的なことには言及できないが、平成20年度の前回調査に比べて、家族支援については目立った改善があるとはいいがたい状況にあると思われる。

今回、支援につながって間もない家族を主対象としていることから、最終年度には、家族の不安や混乱に対応した細やかな対応・支援の必要性を明らかにし、あらゆる時点での包括的な家族支援体制に言及する予定である。

研究協力者

森田展彰：筑波大学

吉岡幸子：埼玉県立大学

新井清美：首都大学東京

岡崎直人：さいたま市こころの健康センター

平山智恵：埼玉県立精神医療センター

依存症医療機関に繋がって間もない(3か月以内)家族の実態とニーズについて明らかとするためアンケート調査を行うことを目的とする。

A. 研究目的

当研究者等は、平成20年度厚生労働科学研究費補助金の助成により、2500名以上の家族から調査協力を得て実態とニーズについて調査を行った。その結果、アルコール依存症・薬物依存症患者の家族は深刻なストレス状況にあり、実態を踏まえた十分な支援体制の構築が必要であることが明らかとなった。この調査対象者の多くはすでに支援機関やグループに繋がりが、患者も良好な状態にあったにもかかわらず、家族は深刻なストレス状態に置かれていたのである。それならば、患者の状態が安定しない状態にある家族はより深刻な状態にあることが推察される。そこで本研究では、相談機関や

B. 研究方法

下記の通り研究を実施した。

1) 調査票の作成

調査内容は、対象者の属性、生活状況、当事者の状況、対象者が問題と感じていること、対象者のストレス状況、相談や受診に至る状況・困難、家族グループとの繋がり、今後必要とする支援などであり、家族のニーズを過不足なく調査できるものを作成した。

2) 調査対象・調査場所

対象は、全国69カ所の精神保健福祉センター・保健所などの相談機関、及び全国の依存症治療を実施している医療機関、断酒会、家族会などに、アルコール関連の問題で相談、あるいは受診に同伴した家族とした。

研究方法

【無記名自記式質問紙調査】

【アンケート依頼先】

- ・アルコール・薬物専門治療病院
- ・アルコール外来等ある病院・クリニック
- ・全国精神保健福祉センター
- ・全国保健所
- ・公益法人日本断酒連盟

郵がって回らない家族(おおよそ3か月)にアンケート依頼

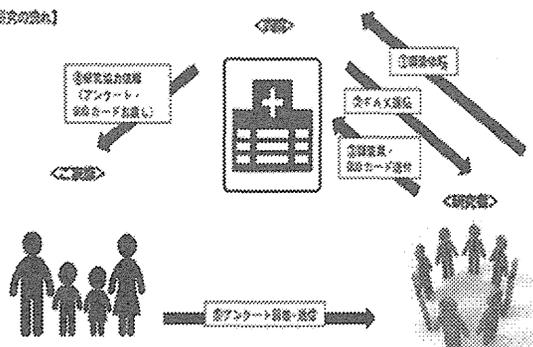
*本研究は埼玉県立医療センター倫理審査を受けて実施

3) 調査方法

まず、上記相談機関及び治療機関の施設責任者宛てに協力を依頼し、理解と同意を得た。次に、同意の得られた機関において、相談・治療スタッフを介して、調査票を対象者に配布し調査への協力を依頼してもらった。調査票は匿名とし、回答後の調査票を郵送にて研究代表者(分担研究者)が回収した。尚、調査票の提出を持って研究への同意が得られたこととした。

研究の流れ

【研究の流れ】



4) 結果の分析

アルコール関連問題を持つ当事者の家族の実態とニーズについて、先行研究及び薬物関連問題を持つ当事者の家族の実態とニーズとの比較などを通して分析した。

5) 結果の公表・啓発

本研究で得られた結果をまとめた報告書を、研究協力機関をはじめ、関連機関へ配布するとともに、フォーラム等の開催により啓発活動に繋げる。

(倫理面への配慮)

各機関に対して文書、あるいは可能な限り直接、調査の目的、方法、倫理的配慮等を説明し理解を得て協力を依頼した。各機関の協力者から対象者に対して、文書及び口頭で調査目的、方法、倫理的配慮等を説明し、協力を依頼した。調査協力に同意を得られた対象者に調査票を渡し、無記名で回答してもらった。記入された調査票は各対象者から研究代表者(分担研究者)宛てに郵送してもらった。対象者が調査協力できない場合でもなんら不利になることはないことを説明したうえで、無記名で郵送にて回収した。個人情報特定されることはなく、個人情報は保護される。

C. 研究結果

平成28年2月10日までの時点で回収されたアルコール家族525例、薬物家族99例を基に中間結果について報告する。なお、現在も回収作業は継続中である。

研究結果:

【アルコールご家族からの回答】 525通

【薬物ご家族からの回答】 99通

配付機関	人(%)	
	アルコール	薬物
精神保健福祉センター	15 (2.9)	18 (18.2)
保健所・保健センター	5 (1.0)	-
医療機関	248 (47.9)	18 (18.2)
断酒会	236 (45.6)	-
ダルクや家族会	-	7 (7.1)
保護観察所	-	49 (49.5)
その他	4 (0.8)	3 (3.0)
無回答	10 (1.9)	4 (4.0)

1) アルコール問題を持つ家族の研究

① 性別・年齢・続柄

家族の性別は、男性72人(13.9%)、女性444人(85.7%)であり、平均年齢は、それぞれ60.18歳(±13.31)、57.77歳(±11.88)であった。続柄は、配偶者が64%、親16%、子10%、兄弟姉妹5%であり、配偶者が多数を占めた。

一方、当事者の性別は、男性461人(89.0%)、女性55人(10.6%)であり、平均年齢は、それぞれ57.73歳(±13.31)、48.75歳(±16.07)であった。

② 生活状況・就労状況

当事者との同居状態は、同居中 79.9%、別世帯の家族と同居 7.9%、独居 5.2%であった。

当事者の飲酒状況は、断酒中 55.4%、飲酒できない状態（入院、服役など）19.7%、頻回に飲酒 12.9%、時々飲酒 9.3%であった。

当事者の就労状況は、働いている（パート等含む）38.8%であり、高齢のため働いていないが 18.5%であった。当事者の収入源は、年金 51.8%、家族の援助 38.2%、自分の収入 12.6%、生活保護 4.5%の順であった。

③ アルコール問題の相談

家族が当事者のアルコール問題に気づいた時の本人の年齢は 44.6 歳、最初に相談した時の本人の年齢は 51.6 歳であり、7 年の差があった。

アルコール関連問題で内科や救急診療科などに受診歴がある例が 66%であり、医師からの助言で最も多かったのは、「断酒指導と依存症専門医療機関の紹介」40.5%であり、次いで「節酒指導のみ」19.8%、「断酒指導のみ」18.7%であった。

家族が初めて相談に行った機関は、精神科医療機関 36.5%、一般診療科 17.2%、保健所・保健センター 9.5%、精神保健福祉センター 3.1%の順であった。相談回数は、1 回 42.1%、2～5 回 35.9%でほとんどを占めた。相談機関への満足度は、「とても満足」30.9%、「やや満足」39.2%、「やや不満」13.9%、「とても不満」9.3%であった。相談機関の対応として、「親身に相談に乗ってくれ対応や治療について具体的に教えてくれた」62.7%と、「話は聞いてくれたが具体的な対応や治療はあまり教えてくれなかった」27.2%でほとんどを占めた。

家族が精神科医療機関や相談機関に繋がったきっかけは、「自分で調べた」35.1%、「内科で勧められた」25.9%、「インターネットで調べた」22.8%、「家族・親戚から勧められた」20.7%、「友人・知人から勧められた」13.9%の順であった。

各相談機関の満足度（役立ち度）については、「役に立った」と回答した割合は、精神保健福祉センター 41.5%、精神科医療機関 61.8%、救急診療科 39.0%、一般診療科 35.9%、民間相談機関 48.0%、自助グループ 81.3%、警察 34.0%、行政の市民相談 31.0%などであった。

当事者を医療機関や相談機関に繋がられたかについては、継続利用 62.5%、1 度も行っていない 13.1%、継続していない 11.4%となった。

当事者の飲酒に関する考え・行動としては、改善に取り組んで 6 か月以上 37.3%、6 か月以内 32.6%、改善する必要はない 12.5%であった。

家族がとても助けられたと感じているのは、自助グループ 51.5%、精神科医療機関 50.0%の 2 者が半数を占め、次いで、家族 25.5%、一般診療科 15.4%、友人・知人 15.3%などであった。

家族が医療機関や相談機関に繋がってからの期間は、3 か月未満 36.1%、3～6 か月 10.4%、6 か月～1 年 13.1%であり、1 年以上が 37.3%であった。

アルコール問題について相談することの困難を、「いつも感じていた」42.9%、「時々感じていた」28.4%と合わせて 71.3%が相談することの難しさを感じたと答えている。その理由として（複数回答）、「どこで相談すればいいかわからなかった」61.4%、「世間体や偏見が気になる」41.0%、「相談機関・医療機関が不足している」27.7%、「疲れていて相談する気になれない」19.2%であった。

④ 当事者の現在のアルコール問題

当事者の現在のアルコール関連問題は、頻度の高いものから、身体の問題（47.3%）、うつ状態（24.9%）、家庭問題（21.2%）、就労問題（18.3%）、言葉の暴力（15.3%）、幻覚妄想（11.0%）、経済的問題（10.8%）、家族への暴力（7.9%）などであった。

家族は当事者の飲酒問題に対して、89%が断

酒を望んでおり、8%が節酒を望んでいた。

⑤ アルコール健康障害対策基本法

アルコール健康障害対策基本法を、知らない59.7%、名前を知っている27.0%、内容を知っている11.2%と、未だ周知は不十分であった。

2) 薬物問題を持つ家族の研究

① 性別・年齢・続柄

家族の性別は、男性30人(30.3%)、女性67人(67.7%)であり、平均年齢は、それぞれ68.37歳(±7.62)、58.57歳(±11.55)であった。続柄は、配偶者が9%、親74%、子6%、兄弟姉妹3%であり、親が多数を占めた。

一方、当事者の性別は、男性87人(89.0%)、女性10人(10.1%)であり、平均年齢は、それぞれ39.43歳(±10.53)、33.45歳(±10.29)とであった。アルコールの当事者に比べて、男性が18.3歳、女性が15.3歳若かった。

② 生活状況・就労状況

当事者との同居状態は、同居中29.2%、別世帯の家族と同居7.1%で、48.5%が服役中、ダルク5.1%であった。

主な使用薬物は、覚せい剤75.8%、危険ドラッグ6.1%、大麻4.0%、鎮痛剤2.0%、睡眠薬・抗不安薬1.0%、鎮咳薬1.0%で、ほとんどが覚せい剤事例であった。

当事者の薬物使用状況は、断薬中32.3%、使用できない状態(入院、服役など)51.5%、頻回に使用3.0%、時々使用4.0%であった。

当事者の就労状況は、働いている(パート等含む)22.2%であり、当事者の収入源は、家族の援助28.3%、生活保護お4.0%であった。

③ 薬物問題の相談

家族が当事者の薬物問題に気づいた時の本人の年齢は28.8歳、最初に相談した時の本人の年齢は30.3歳であり、1.5年の差があった。

当事者に、薬物の問題があると感じたきっかけは、「警察関与のトラブル」58.6%、「薬物による精神症状」43.4%、「薬物・道具・使用を発見」34.3%であった。

家族が初めて相談に行った機関は、精神保健福祉センター19.2%、精神科医療機関17.2%、警察15.2%、保護観察所8.1%、ダルク5.1%、家族会4.0%などであった。相談機関への満足度は、「とても満足」20.2%、「やや満足」34.3%、「やや不満」21.2%、「とても不満」10.1%で、アルコールの相談に比べて満足度は低かった。相談機関の対応として、「親身に相談に乗ってくれ対応や治療について具体的に教えてくれた」41.4%と、「話は聞いてくれたが具体的な対応や治療はあまり教えてくれなかった」30.3%でほとんどを占めた。「少ししか話を聞いてくれなかった」が8.1%あった。

各相談機関の満足度(役立ち度)については、「役に立った」と回答した割合は、家族会55.3%、当事者の自助グループ54.1%、精神保健福祉センター45.5%、保護司・保護観察官41.9%、精神科医療機関39.5%などであった。

当事者を医療機関や相談機関に繋げられたかについては、継続利用16.2%、1度も行っていない41.4%、継続していない19.2%となった。

当事者の薬物に関する考え・行動としては、改善に取り組んで6か月以上33.3%、6か月以内21.2%、考えはあるが実行していない28.3%であった。

家族が医療機関や相談機関に繋がってからの期間は、3か月未満32.4%、3~6か月12.1%、6か月~1年7.1%であり、1年以上が30.3%であった。

薬物問題について相談することの困難を、「いつも感じていた」44.4%、「時々感じていた」20.2%と合わせて64.6%が相談することの難しさを感じたと答えている。その理由として(複数回答)、「どこで相談すればいいかわからなかった」54.7%、「世間体や偏見が気になる」48.0%、「相談機関・医療機関が不足している」38.7%、「通報・逮捕が心配」28.0%、「疲れていて相談する気になれない」13.3%であった。

④ 当事者の現在の薬物問題

当事者の現在の薬物関連問題は、頻度の高いものから、身体の問題(32.3%、過去30.3%)、経済的問題(24.2%、過去42.4%)、うつ状態(17.2%、過去34.3%)、薬物関連犯罪(17.2%、過去37.4%)、就労問題(14.1%、過去42.4%)、家庭問題(12.1%、過去34.3%)、幻覚妄想(10.1%、過去39.4%)、言葉の暴力(7.1%、過去37.4%)、薬物関連以外の犯罪(7.1%、過去32.3%)、家族への身体的暴力(2.0%、過去27.3%)などであった。

D. 考察

現在、平成28年3月の時点で回収は継続しており、ここに示した集計値は本年2月10日時点の中間報告である。

アルコールの家族を対象とした調査では、調査経路は、精神科医療機関47.5%、断酒会45.6%で、両者を合わせて93.1%であった。平成20年度の当研究者らが実施した厚生労働科学研究での調査では、精神科医療機関12.0%、断酒会81.9%であり、両者を合わせると93.9%と両者が占める割合はほぼ同じであるが、今回の調査は医療機関に比重が高くなっている点で異なる。

また、当事者の断酒率は、前回調査で79.3%であるのに対して、本調査では55.4%であった。全体として、母集団は医療機関に比重が高いことから、安定して断酒継続しているとはいえないと考えられる。

家族がアルコール問題を相談することに困難を感じているか否かについては、「いつも感じていた」42.9%、「時々感じていた」28.4%と合わせて71.3%が困難を感じていたが、その理由として、「相談先が不明」61.4%、「世間体や偏見」41.0%、「相談機関・医療機関の不足」27.7%、「疲れていて相談する気になれない」19.2%であった。これは、前回調査では、それぞれ69.9%、42.9%、24.8%、15.0%であり、単純には比較できない点もあるが、8年前と比べて相談の困難に改善は認められない。

薬物の家族を対象とした調査では、調査経路は、保護観察所49.5%、精神科医療機関18.2%、精神保健福祉センター18.2%などであった。平成20年度の当研究者らが実施した厚生労働科学研究での調査では、ダルク・家族会74.0%、民間相談機関10.9%、精神保健福祉センター6.8%、精神科医療機関6.3%であり、対象が現時点では異なる。今後、ダルク・家族会及び保護観察所からの回答が多く加わる予定である。

また、当事者の断薬率は、前回調査で51.8%であるのに対して、本調査では32.3%であった。全体として、現在回収済みの母集団は保護観察所経由に比重が高いことから、当事者は調査時点で刑務所に服役中であり、現在は薬物使用できないものの、今後の出所を控えて家族が不安を抱えている状況にある。

家族が薬物問題を相談することに困難を感じているか否かについては、「いつも感じていた」44.4%、「時々感じていた」20.2%と合わせて64.6%が困難を感じていた。その理由として、「相談先が不明」54.7%、「世間体や偏見」48.0%、「相談機関・医療機関の不足」38.7%、「疲れていて相談する気になれない」13.3%であった。これは、前回調査では、「情報不足」80%、「相談機関・医療機関の不足」67%、「世間体や偏見」60%、「通報される不安」23%であった。

保護観察所の実施している家族会により、同じ境遇の家族が集まり情報を得られることは、孤立しがちな家族にとって重要な役割を果たすことが期待される。保護観察所と医療機関、家族会の連携がとれると、さらに機能的な家族支援につながるのではないかと考えられる。

E. 今後の調査研究について

平成20年度の研究により、家族の置かれた厳しい状況が明らかとなった。問題は多岐にわたり、支援は乏しく、最も満足できる対応を得られたのは当事者団体・家族グループであった。また、良好な経過にある家族であっても、スト

レス状況は深刻であり、ただちに治療を要する家族も少なくないという実態と、ほとんど満たされているニーズはなく、多岐にわたる支援が必要とされている現状が明らかとなっている。

さらに今回は、相談機関、医療機関に繋がって間もない家族を調査対象の中心とすることにより、より混乱していたり、孤立していたり、不安を抱えて困惑していたりという深刻な状況が予想される。本調査対象の家族のストレス状況については、家族及び当事者の状況別に明らかにする予定である。

困惑した家族の支援の一環として、わかりやすい情報提供や心理的サポートが求められる。昨年度は、これらを提供するため、用途に応じたツールを作成した。依存症に関する知識を身に付けてもらうことを目的とした「知識版」と、適切な対応をとるための手引きとしての「対応版」、前回の調査で得られた実態をわかりやすく提供する「調査報告版」、「対人関係問題のチェックリスト」の4種のツールを家族及び関係者に提供できるよう準備した。これらツールに関する家族からの評価をもとに、必要な情報、知識の提供の仕方についても検討していく予定である。

調査結果をもとに啓発活動を展開する方法として家族支援フォーラムを開催した。本年度は、研究班メンバーが主体となって、平成28年2月20日埼玉県さいたま市において「埼玉アルコール・薬物家族支援フォーラム」を実施した。家族、関係機関職員等の支援者を中心に約90名の参加を得て、今後の有効な啓発活動を行うための予備調査とした。

最終年度の平成28年度には、現在集計中の結果、及び新たに予定している追加調査により、アルコール、薬物の個々の状況に応じた家族の実態とニーズについて具体的に明らかにし、前回調査との比較も加えて、適切な支援の提供について考察する予定である。

現時点（平成28年2月10日時点）で回収済みの情報は、アルコール525例、薬物99例であり、調査経路に大きな相違があるため、確定的なことは現時点で言及できないが、平成20年度の前回調査に比べて、家族支援については目立った改善があるとはいいがたい状況にあると思われる。今回、支援につながって間もない家族を主対象としていることから、家族の不安や混乱に対応した細やかな対応・支援を明らかにし、あらゆる時点での総括的家族支援体制に言及できる内容の報告を考えている。

E. 研究発表

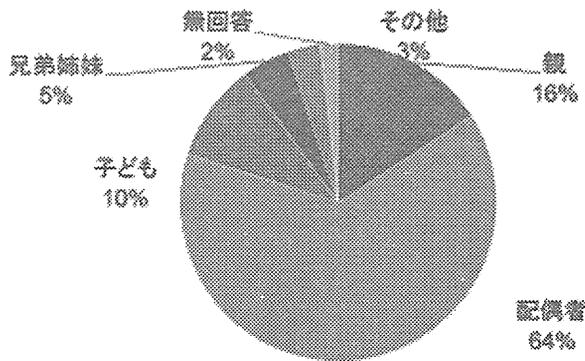
1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
特になし

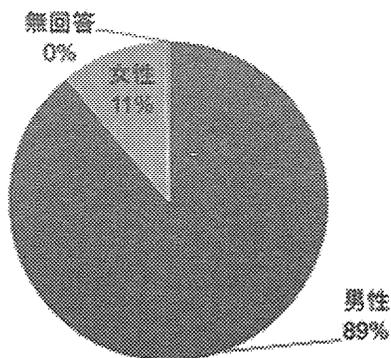
(1) 家族の性別・年齢・続柄

- ・男性 72人 (13.9%) 60.18歳(±13.86)
- ・女性 444人 (85.7) 57.77歳(±11.88)
- ・続柄

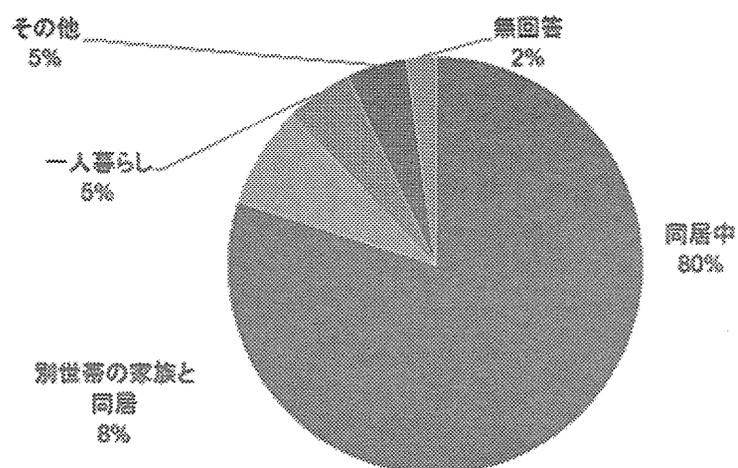


(2) 当事者の性別・年齢・続柄

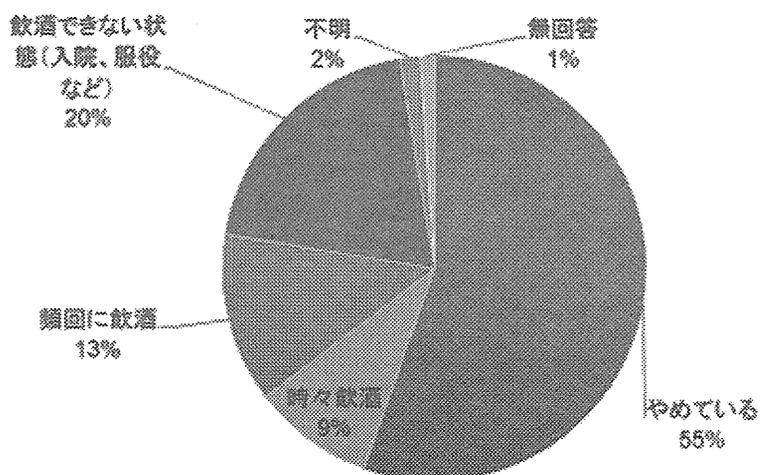
- ・男性 461人 (89.0%) 57.73歳(±13.31)
- ・女性 55人 (10.6%) 48.75歳(±16.07)



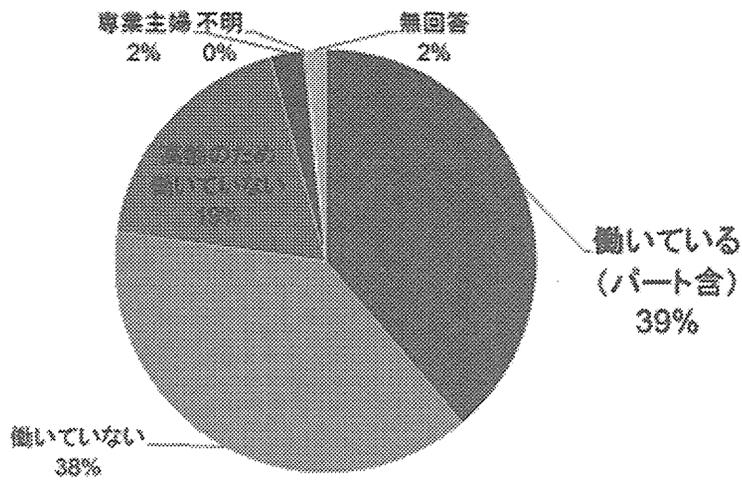
「当事者」との同居状態



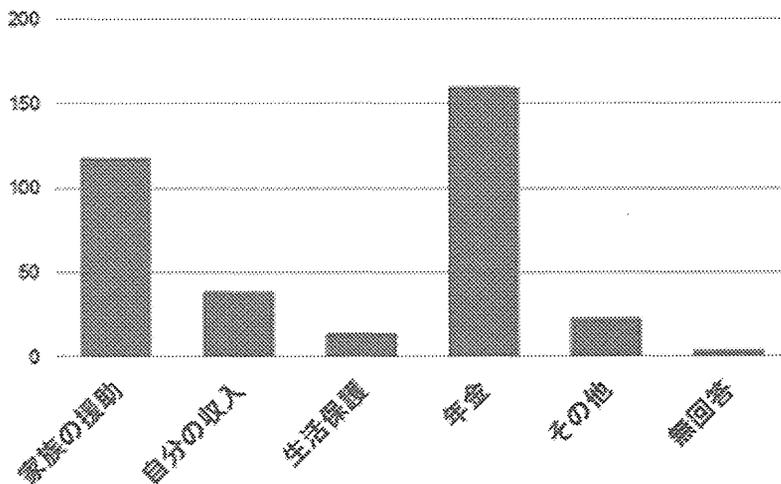
「当事者」の飲酒状態



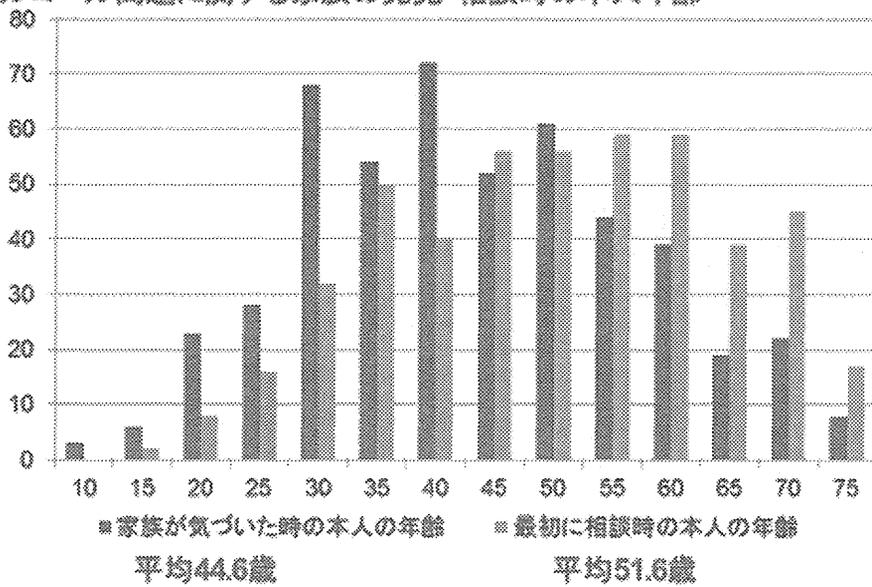
「当事者」の仕事



「当事者」の収入源 (複数回答)



アルコール問題に関する家族の発見・相談時の本人年齢



アルコール関連問題で内科等一般診療科、救急診療科等に受診の有無

